

令和3年度 県立太田第一高等学校自己評価表 [全日制課程]

| 目指す学校像 | | グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する起業家となる基礎を育む学校 | | | | |
|---|--|--|-----------------------------|--|---|---|
| 三つの方針 | | 具体的目標 | | 評価 | | 次年度への課題 |
| 「三つの方針」 (スクール・ポリシー) | 「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー) | グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する起業家となる基礎を育む (1) 自ら課題を発見し、他者との協働により創造的に解決する力 (2) 主体的に学び続ける力 (3) 多様性を受容し、地球的視野で判断する力 | | B | B | 全教科で「到達目標ベースの年間指導・評価計画」を作成 |
| | 「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー) | (1) 探究を軸とした創造的な学びの環境を整備する。 (2) 単位制を生かす多様な選択肢を用意する。 (3) 生徒が学校運営に参画できる仕組みを構築する。 (4) ICTを効果的に活用することにより学習の個別最適化を図る。 (5) 多様な価値観に触れる機会を創出する。 | | A | | 校務分掌に「探究推進部」を新設。6年間の探究活動をドライブ。放課後の課外講座「青龍アラカルト」で生徒の選択肢を充実 |
| | 「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー) | (1) 自ら学びに向かう生徒 (2) 挑戦意欲と柔軟性のある生徒 (3) 自他の個性を尊重できる生徒 | | B | | 中学生や地域住民に対して本校の取り組みを確実に伝えるための情報発信のチャンネルの多様化 |
| 昨年度の成果と課題 | | 重点項目 | | 重点目標 | | 達成状況 |
| <p>●学習機会を有効に活用する生徒の向上心を保持する体制づくりが望まれる。授業を最優先と捉えるとともに、課外授業をさらに有効に実施するための体制を構築する必要がある。現行のシステムを有効活用し、学習サイクルの定着を重視する。高大接続改革に対応した学習指導の研究を進める。</p> <p>●共通テストを検証し、一般入試で合格に必要な学力を伸ばす授業の質の向上とともに、生徒の探究活動等の実績を生かした推薦指導など進路指導の多様化を図る必要がある。進路実績は維持の状況である。実績向上に向けて、志を高く持ちながら進路実現に向けて努力するよう指導していく必要がある。●スマートフォンのマナー違反や過度の使用が増えてきた。マナーの向上を呼びかけ、家庭との協力を強化する必要がある。自転車・バイク事故が年間通じて発生している。交通事故を減らすための安全教育を進める必要がある。●部活動加入率は88%(昨年度と同率)と非常に高く、運動・文化部とも熱心に活動しているが、更なる活性化のため、生徒の主体的な活動を促す必要がある。●超過勤務時間は、昨年度に比べ改善されつつある。しかし、依然として超過勤務が常態化している傾向が見られる。教員の意識改革を進める必要がある。</p> | | 1 | 国公立大学現役合格者数 難関大学合格者数 | 合格者数54人。 合格者数3人。 | D | |
| | | 2 | 学校運営に参画した生徒ののべ人数 | 生徒による「青龍だより」の発行等、のべ100人以上の生徒が学校運営に参画する。 | A | |
| | | | 生徒が外部資源を活用した回数 | 各教科において年間1回以上、生徒が外部資源(※)を活用して、深い学びを実現する。 ※外部の人的・物的資源の他、インターネット、図書館等も含む。 | A | |
| | | 3 | 探究的な学びを取り入れている授業の割合 | 全ての授業で、年間を通して探究的な視点を取り入れた授業を実践する。 | B | |
| | | | 探究実践事例を作成している割合 | 各教科で探究実践事例を作成する。 | A | |
| | | | コンピテンシーベースでの年間到達目標を作成している割合 | 各教科科目で「生徒が何ができるようになるか」という考えに基づいた年間到達目標を作成する。 | B | |
| | | 4 | アントレプレナーシップ系コンテスト参加者数 | ドリームパス等へのコンテストに5組以上が参加する。 | A | |
| | | | 他の教員の授業から気づき・学びを得た教員ののべ人数 | 各教員が毎月1回以上、他の教員の授業から気づき・学びを得る。 | B | |
| | | | 授業に満足している生徒の割合 | 各教科における生徒の授業満足度90%以上。 | A | |
| | | 5 | 授業における教員のICT活用割合 | 各教員がそれぞれの授業においてICTを効果的に活用することにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。 | B | |
| 実践的な英語力を身に付けている生徒の割合 | 高校3年次において、英検2級相当の生徒の割合50%以上。 | | C | | | |
| 授業の中でダイバーシティ教育を取り入れている割合 | すべての生徒が年間1回以上、ALTや留学生とのディスカッション等を通して異文化理解を深める。 | | B | | | |
| | 授業の中でSDGsを取り入れている割合 | 各教科・科目の授業において年間1回以上、SDGsについて生徒が考える機会を作る。 | A | | | |

| | | 授業の中でSTEAM教育を取り入れている割合 | 科学系コンテスト等(※)へ2組以上が参加する。※県主催の「高校生科学体験教室」「高校生科学研究発表会」「科学の甲子園茨城県大会」等 | A | | | |
|----------------------------------|--|---|---|---|--|--|---|
| | | 6 1か月平均超過勤務時間数 | 各分掌、年次等で業務の効率化を推進するための具体的な工夫を行うことで、1か月平均超過勤務時間数を45時間以下にする。 | B | | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | | |
| 教科指導 | 1 学習指導の技術を向上させ、主体的・対話的で深い学びを実現するとともに確かな学力の定着を図る。 | | (1)学習意欲を喚起し、対話的で分かりやすい授業の実践に努める。 | B | B | | |
| | 2 自主的・自律的な生活態度を育成し学習習慣の確立を図る。 | | (2)自己管理能力を高め家庭での学習時間を確保させ、基礎学力の向上・定着を図る。 | B | | | |
| | | | (3)生徒理解のための学習状況調査を実施し、課題を分析検討して具体的対策を講じていく。 | B | | | |
| 教科語 | 国 | 1 主体的に読み、それをもとに表現する力の育成を図る。 | (1)小テスト等を利用して基礎的な言語事項や文法・句法の理解度を把握し、習熟度に沿った対応を心がける。 | B | B | ・観点別評価の研究をさらに深める。 ・ICT機器のより有効な活用方法を研究し、授業改善につなげる。 | |
| | | 2 家庭学習の習慣化に努める。 | (2)ICTを活用した授業展開をはかりながら、学習意欲を喚起し、対話的で分かりやすい授業の実践に努め、学習内容の定着に努める。 | A | | | |
| | | 3 読解力・表現力向上を目指し、授業の改善に努める。 | (3)探究的な視点を取り入れた授業実践を、年間を通して展開し、授業改善を推進する。 | A | | | |
| | 語 | 1 主体的に読み、それをもとに表現する力の育成を図る。 | (4)自己管理能力を高めるため家庭学習教材等を準備するなどし、家庭学習の習慣をつけさせる。 | B | | | |
| | | 2 家庭学習の習慣化に努める。 | (5)全員が授業公開し、新学習指導要領を踏まえた指導力の向上、主体的・対話的で深い学びの | B | | | |
| | | 3 読解力・表現力向上を目指し、授業の改善に努める。 | (6)各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。 | A | | | |
| 教科 | 地歴・公民 | 1 進路実現のために必要な基礎学力の向上を図るとともに思考力や判断力を養う。 | (1)単元ごとに、学習した知識とともに思考力・判断力・表現力を問う小テストを実施する。 | B | B | ・生徒の進路実現のために教科指導力を向上させる。 ・主体的な学び合い学習をもつことにより、生徒の課題解決につなげる態度を養う。 | |
| | | 2 日本と世界の歴史や地理に関する理解を深め、国際化にも対応できる授業実践に努める。 | (2)視聴覚教材やインターネットを有効活用し、日本と世界の歴史や地理について多面的・多角的にとらえさせる。 | A | | | |
| | | 3 政治や社会の諸課題について問題意識をもたせ、自ら課題解決に向かう公民としての資質を養う。 | (3)新聞記事やTVニュースの内容等を通し、社会の諸課題についての関心を高め、課題解決に向けた話し合い活動等を行う。 | B | | | |
| | 数学 | 1 基礎学力の向上を図り、生徒の主体的な学びを支援する | (1)小テスト等を利用して学習の理解度を把握し、習得が不十分な生徒が積極的に学習に取り組めるように動機付けを含めた学習支援をする。 | B | B | ・指導方法を工夫して基礎学力の更なる向上に努める。 ・課題の出し方・提出のさせ方を工夫して自主的な学習の習慣をつけさせる。 | |
| | | | (2)少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確し、次年度への改善策を検討する。 | B | | | |
| | | | (3)より深く学びたい生徒に対して学習内容を深化できるように支援する。 | B | | | |
| | | 2 家庭学習習慣の定着に努める。 | (4)課題のノートを定期的に点検し、家庭学習の習慣を付ける。 | B | | | |
| | | | 3 数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。 | (5)担当者全員がお互いに授業を公開して見学し合い、授業内容・方法等について教科内で研究協議する。 | | | C |
| | | | | (6)各研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。 | | | C |
| | 理科 | 1 学習の充実を図り確かな学力の定着を図る。 | (1)学習意欲を喚起するような対話的な授業の実践に努め、生徒一人一人に寄り添う指導を行う。 | B | B | ・生徒が主体的に学習する機会を増やす。 ・意欲的に授業に取り組めるような指導の工夫。 | |
| | | | (2)自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、主体的に学ぶ態度を育成するよう、実験・観察を行う。 | B | | | |
| | | 2 学習習慣の確立を図る。 | (3)生徒の実態に応じた課題を設定し、家庭学習の習慣をつけさせる。 | B | | | |
| 3 生徒が外部資源を通して深い学びを実現できるような工夫をする。 | | (4)年間を通し、外部の人的・物的資源・インターネット等を利用し、主体的に探究する機会 | B | | | | |
| 保体 | 1 運動技能を高め、規律ある行動や態度を育成し、基本的生活習慣の確立を目指す。 | (1)整列、挨拶、時間、服装等を守らせようとして、体力の向上ならびに、各種の運動技能を高めさせる。 | A | B | ・評価のあり方を確立し、教科内で共通理解を図る。 ・主体的に取り組む場面の取り入れ方の工夫 | | |
| | 2 保健の知識を身に付けさせ、生活に生かせるようにする。 | (2)健康・安全について理解させ、生涯を通じて健康を管理・改善できるようにさせる。 | B | | | | |
| 芸術 | 1 表現力の向上を図る。 | (1)個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。 | A | B | ・主体的・対話的で深い学びを引き出す学習活動の工夫 ・ICTを活用した表現、鑑賞活動の工夫 | | |
| | | (2)さまざまな作例を取り上げ、幅広い表現活動を促す。 | A | | | | |
| | 2 鑑賞の基礎的能力を深める。 | (1)生徒の素直な見方を尊重しつつ、制作意図や表現の工夫点にも気づかせる。 | B | | | | |
| | | (2)お互いの作品を鑑賞するとともに、さまざまな展覧会の鑑賞も促す。 | B | | | | |
| | | (1)生徒が興味を持つような題材を設定して、主体的に制作活動ができるようにする。 | B | | | | |

別紙様式2 (高)

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|-------------------------|---|--------|---------------|
| | 3 主体的・対話的な授業への取り組みに努める。 | (2) 自分の表現のテーマ(主題)を明確にし、他者と意見交換しながら表現を工夫する。 (3) 作品は必ず完成させ、制作の達成感を味わわせる。 | B A | |

別紙様式2 (高)

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | | | |
|--|---|--|--|---|---|---|--|
| 教 | 英語 | 1 基礎学力の定着、実践力の向上を図り、進路希望の実現に努める。 | (1) 到達目標を意識した指導を行い、内容の定着および応用力の育成を図り、評価を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の研究をさらに深める。 ・4技能5領域の育成を意識したパフォーマンステストの改善と向上を図る。 ・ICT機器のより有効な活用方法を研究し、授業改善につなげる。 ・年間到達目標を作成し、それに基づく取り組みを学校全体に働きかける。 | | |
| | | | (2) 少人数授業、習熟度別によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題をふまえ、指導方法の改善策を講じる。 | B | | | |
| | | | (3) 学力向上につながる小テストや課題等を工夫し、自主的に学習に取り組む学習習慣と態度を身に付ける。 | B | | | |
| | | 2 探究的な学びを通して主体的に社会参画する態度を涵養する。 | (1) 各種コンテストやEnglish Camp、英語研修に積極的に参加し、異文化理解を深め、深い学びと実践力を高める。 | A | | | |
| | | | (2) 授業でSDGsを軸とした教材を扱い、地球的視野に立って行動するための資質を育成する。 | A | | | |
| | | | (1) ALTとのティームティーチング授業を効果的に展開し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。 | A | | | |
| | 3 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の改善を推進する。 | (2) 教材、指導法について研究を深め、「読む、書く、話す、聞く」の4技能5領域をバランスよく育成する。 *ICT機器の活用、ディベート的要素を取り入れた言語活動、学習クラウドサービスの活用 | A | | | | |
| | | (3) 各種研修会に積極的に参加したり相互授業参観を実施するなど、指導力の改善に向けた自己研鑽に努める。 | B | | | | |
| | | (4) 表現力を高めるパフォーマンステストを効果的に行い、観点別評価の研究を深める。 | B | | | | |
| | | (5) 英語外部検定試験を含めた大学の新入試制度への対応を深める。 *実用英語検定試験準会場実施、GTEC1・2年次生悉皆受験 | A | | | | |
| | | 科 | 1 家庭に関する知識や技術が身につくよう努める。 | (1) 実験・実習の形態を工夫し、生活に必要な基礎的・基本的な知識や技術の習得を目指す。 | | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトの進め方の見直し。 ・生徒の実態に即した、実験・実習の在り方の検討。 ・観点別評価の方法の研究。 |
| | | | | (2) 妊婦体験、乳幼児の世話、高齢者の疑似体験などの体験学習を多く取り入れ、学習内容の | | B | |
| (3) 家庭科の各分野(衣・食・住、共生、環境、消費生活)と関連づけてSDGsについて考え、 | B | | | | | | |
| 2 生活の課題を見出しこれを改善しようとする態度を育てる。 | (1) 各種コンテストへの参加や外部資源を活用することで家庭に関する興味、関心を深めさせる。 | | C | | | | |
| | (2) ホームプロジェクトなどの探究的な学びを通して、身近な生活の中に課題をみつけ、主体的に解決する方法を考えさせる。 | | A | | | | |
| | 3 授業がわかる喜びを実感するよう改善に努める。 | | (1) ペア学習・グループ学習・個別指導を使い分け、個人差に配慮した指導法を工夫する。 | B | | | |
| (2) 既存学習との関連(小→中→高)を意識し、同一内容の系統性や連続性を考慮し指導する。 | | B | | | | | |
| (3) 各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。 | | B | | | | | |
| 情報 | 情報がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。 | (1) 担当者全員が学期に1回授業を公開し、授業内容、方法等について教科内で研究協議する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程に向けた教員研修を充実させる。 ・ギガスクールに合わせた対応について学習内容の充実に努める。 | | | |
| | | (2) 各研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。 | B | | | | |

別紙様式2 (高)

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|--------------------------------------|---|----|--|
| 教務 | 1 新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成と運営を図る。 | (1) 生徒の多様な進路に応じた新しい教育課程の計画的な策定に努める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の徹底 ・一斉試験の実施方法見直し ・カセット方式教育課程の円滑な運営 ・新日課の特色を生かした創意工夫 ・ランドデザインに基づいた学校行事運営 ・指導要録点検の精度を上げること ・ICTを生かした授業方法の研究 ・オンライン学習のシステム化 ・附属中教務と連携し一貫校の強みを生かすこと |
| | | (2) 学校設定科目についての研究を図る。 | B | |
| | | (3) ICTの有効活用について研究する。 | B | |
| | 2 内規の見直しを図る。 | (4) 内規の見直しを図る。 | C | |
| | | (5) 成績評価の方法を研究する。 | B | |
| | 3 授業時間の確保に努める。 | (6) 出張・年休等における授業の確保に努める。 | A | |
| | | (7) 学校行事等の能率的運営を図る。 | A | |
| | | (8) 授業の終始時刻の厳守に努める。 | A | |
| | 4 学校支援システムの円滑な運用に努める。 | (9) 学校支援システムについての教職員の共通理解を図る。 | A | |
| | | (10) 学校支援システムの出力帳票等についての改善を図る。 | A | |
| | 5 広報活動の充実を図る。 | (11) 学校公開の機会をこれまで以上に増やし、中学校・地域への広報活動に努める。 | B | |
| | | (12) 情報部と連携しながら、学校HP・インターネットを活用した情報発信に努める。 | A | |
| | | (13) 学校案内(スクールパンフレット)の充実に努める。 | A | |
| | | (14) ポスター・「青龍だより」を作成配布して広報に努める。 | B | |
| | | (15) 単位制高校の特徴等を説明する。 ①新任者向けに年度始め説明会を実施し理解を図る | A | |
| 庶務 | 1 教育環境の充実を図り、PTA活動に役立てる。 | (1) 高教研への登録を推進し、深い学びの指導力の向上を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の附属中からの内進生の保護者の評議員選出の方法について、令和4年度末までに決定する。 ・生徒数減少に伴うPTA各支部会数の削減等を協議する。 |
| | | (2) 奨学金について、保護者・生徒に周知し、円滑な手続きの実践に努める。 | A | |
| | | (3) PTA会員名簿を、他部署と協力しながら作成し、効果的な活用と管理に努める。 | A | |
| | 2 PTA活動を通して、生徒の充実した学校生活や進路実現を支援する。 | (4) PTA総会・年次PTA・学年PTA・PTA支部懇談会などの出席率向上を図る。 | C | |
| | | (5) PTA会報の内容の充実を図り、学校と保護者との交流を深める。 | B | |
| | 3 PTA活動を通して、保護者と教員とが協力し、生徒の健全育成に努める。 | (6) さわやかマナーアップ運動・列車添乗指導・夏祭り巡視、マラソン大会補助などを行う。 | | |
| | | (7) PTA研修旅行を実施し、見聞を広め、保護者と教員との親睦を深める。 | | |
| 学習研究 | 1 学習指導の充実を図る。 | (1) 学習意欲を高める授業の研究・実践および課外授業の充実に努める。 | A | 組織改編に伴う業務の移管。新たな業務への対応。 |
| | | (2) 新学習指導要領や高大接続改革に向けた指導研究を進め、実践につなげる。 | B | |
| | | (3) ICT活用の推進、授業時数の最低5割の使用を目指す。 | A | |
| | 2 学習習慣の確立を図り学力の向上を目指す。 | (4) スタディサプリ・Classiの積極的活用を促しつつ、生徒の主体的な自学自習力を育成と家庭学習時間増をめざす。 | B | |
| | | (5) 生徒理解のための学習状況調査を実施し、その分析検討及び対策を図る。 | B | |
| | 3 校内研修の充実に努め他の部・年次との連携を図る。 | (6) 生徒・保護者への適切な学習情報の提供を図る。 | B | |
| | | (7) 研究協議や授業公開を通して主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、教科指導改善に取り組む。 | B | |
| | | (8) 年次、教科、進路指導部等の校内分掌の他、学校評議会、PTA、同窓会との連携を強化し、生徒の実態や、情報を共有し、組織的な指導体制の構築を図る。 | C | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | |
|------|--|--|--|---|--|
| 進路指導 | 【進学目標】 1 各年次に応じた適切な進路指導の充実を図る。 2 大学入学共通テストの結果をふまえ、進学情報の収集と分析・適切な資料の提供と利用を図る。 3 各生徒の進路希望に合った進路指導を実践する。 4 小論文指導を計画的かつ継続的に進める。 5 総合型選抜及び学校推薦型選抜の研究と対策を進める。 6 総合的な探究の時間等を活用し、大学進学等に結びつく継続的な探究活動の指導の充実を図る。 | (1) 学習研究部・各年次・各教科との連携による進路指導の充実を図る。 | B | ・進路行事の一部見直し ・附属中1年次から高校3年次(6年次)までの6年間を通じた進路指導の構築 | |
| | | (2) オンラインサービス等を利用したデータの提供・分析等にあたり、各年次の指導にあった適切な資料の提供を図る。 | B | | |
| | | (3) 大学教員による模擬授業・大学見学会・HR講演会・進学懇談会等の実施による生徒の進学意識の向上を図る。 | C | | |
| | | (4) 小論文特別講座、面接講座を実施する。 | B | | |
| | | (5) 総合型選抜及び学校推薦型選抜に関するデータを収集・分析し、生徒の個別指導に役立てる。 | B | | |
| | | (6) 進路情報の共有を密にし、有効活用を図る。 | B | | |
| | | (7) 進路資料室の有効活用を促進し、進路相談・面接指導の充実を図る。 | A | | |
| | | (8) 大学入学共通テストの結果を検証し、対策に努める。 | B | | |
| | | (9) 生徒の探究活動が、大学進学後の研究活動及び将来の職業にも結びつく情報を収集・提供する。 | C | | |
| | 【就職目標】 生徒の能力・適性に合った就職指導の徹底を図る。 | (1) 適切な職業相談と就職の斡旋に努める。 | B | | |
| | | (2) 資料の収集・整理・事業所についての調査研究とその活用を努める。 | B | | |
| | | (3) 3年次において就職希望者に対する各種ガイダンスや会社見学等の適切な指導を図る。 | B | | |
| | | (4) 各種模試・面接指導を実施し生徒の希望の実現を図る。 | A | | |
| 生徒指導 | 1 基本的な生活習慣の確立を図る。 | (1) 盗難・遅刻防止 | (1) 自転車・バイクの鍵の管理を徹底させる。 | C | ・時代に合った校則の見直し ・自転車・バイクの鍵の管理を更に徹底させる。 ・交通安全指導の更なる強化 |
| | | (2) 服装・頭髮等 | (2) 貴重品の自己管理の徹底と教室の施錠・貴重品袋の活用を続けていく。 | B | |
| | | | (3) 服装・頭髮の指導については全職員の共通理解のもと、年次集会や考査中に行い、学年担当や担任、副担任のチェックを通して事後指導等の段階的な指導を行っていく。 | B | |
| | | (3) 特別指導の防止と迅速な対応 | (4) 立哨指導のやり方について共通理解を図り全職員で徹底して行う。 | B | |
| | | (4) 携帯電話の使用についての指導 | (5) 指導方針に一貫性をもたせ、職員の一致協力による指導を行う。 | B | |
| | | | (6) フィルターを掛けさせる等の指導をし、マナーを守らせ適切な使用を徹底させる。 | B | |
| | | | (7) 授業中は使用させないよう指導する。(指定された時間は可) | B | |
| | | | (8) SNSとの付き合い方には十分注意させ、トラブルに巻き込まれないように喚起する。 | B | |
| | 2 交通安全指導の強化に心掛ける。 | (1) 生徒指導員との連携 | (9) 必要に応じPTA生徒指導委員の参加・指導を依頼する。 | C | |
| | | (2) 立哨指導 | (10) 定期的に全職員での立哨指導を行う。 | B | |
| | | (3) 自転車・バイクの定期点検保険加入の徹底 | (11) 4月当初に自転車・バイクの点検を行い保険加入の確認をする。 | B | |
| | | (4) 校内での自転車・バイクについての駐輪指導 | (12) 指定された駐輪場所に駐輪されているかどうか確認指導をする。 | B | |
| | | (5) 交通マナーの向上 | (13) 生徒一人一人の自覚を促し、交通マナーの向上を図る | B | |
| | | 3 生徒の自発的活動を促進する。 | (1) 生活委員会の活性化 | (14) 全クラス的生活委員を毎月末に集めその月の反省・来月の目標を全生徒に通達できるようにする。 | |
| | (15) 交通安全・校則等についてHRでも取り上げ話し合いを進める。 | | | B | |
| | 4 教育相談の充実を図る。 | | (1) 教育相談の充実 | (16) 教育相談における、担任・年次との連携を図り生徒の精神面のサポートをする。 | |
| | | (17) 学校不適応や友人関係の悩み等、スクールカウンセラーとの連携を図り早期解決に導く。 | | A | |
| | | (18) 担任・保護者等に対する支援、相談、情報提供を行う。 | | B | |
| | | | | | |

別紙様式2 (高)

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|---|---|----|--|
| 特別活動 | 1 生き生きとした高校生活の確立を図る。 | (1) HRや学校行事を通して生徒の主体的行動を支援する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動における生徒の主体的活動の推進 ・学校行事や部活動において附属中学校との連携促進 ・学校行事の大幅な見直し |
| | 2 生徒会活動の活性化に努める。 | (2) 生徒会が学校行事の企画運営をし、地域との連携を図りながら、生徒が主体性を発揮できる | A | |
| | 3 ホームルーム活動の活性化と内容の充実を図る。 | (3) 自らの学習状況を振り返り、将来を見通しながら主体的な活動が充実して行えるように、HR年間計画やキャリア・パスポートを活用し、系統的に支援する。 | B | |
| | 4 部活動の充実と発展に努める。 | (4) 部活動の活性化を促進するとともに、生徒の主体性を尊重した運営が出来るよう支援する。 | A | |
| | 5 中高一貫教育校として活動の充実 | (5) 附属中学と各種行事をはじめとして委員会活動や部活動、生徒会活動を通じて連携を図り、 | B | |
| 図書 | 1 図書館資料の充実を図る。 | (1) 図書の収集方針に基づき、定期的な図書選定を実施する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・図書貸出数を増やすための手立ての工夫 ・図書のデジタル化に伴う、教員側の研修 ・分掌が統合されるが、昼休みの図書当番については継続してできるようにお願いしたい |
| | | (2) 蔵書整理の基準に則り、生徒の利用を促進する資料の整理・分類を継続する。 | A | |
| | | (3) 中学生むけや探究の時間の利用に役立つ選書の工夫をする。 | A | |
| | 2 情報センターとしての図書館の利用促進に努める | (4) 書架の配架の工夫等により、様々な利用形態に対応できる図書館の環境整備に努める。 | A | |
| | | (5) 各教科・各分掌との連携により、生徒の現状に沿った図書の利用促進の工夫に努める。 | B | |
| | 3 図書委員会の活動の充実を図る。 | (6) 図書委員の主体的な活動を促進する。 | B | |
| | | (7) 生徒による「図書館便り」「図書館報」等の、図書館広報活動を向上させる。 | B | |
| 保健厚生 | 1 生徒・教職員の心身の健康の増進 | (1) 生徒が主体的に感染防止対策を講じることができる能力を育てる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を引き続き行い、生徒が主体的に感染防止対策を講じられる能力を育成する。 ・二酸化炭素測定機により適切に換気ができる習慣を身につける。 ・生徒の防災意識のさらなる向上を目指す。 |
| | | (2) 生徒の健康安全を重視し学習環境の安全点検を行う。事故防止及び保健室の効果的な運営に | A | |
| | | (3) 性教育等、各種健康教育を実施し健全な健康観を作る。 | B | |
| | 2 学習環境の整備 | (4) 清掃用具の管理に努め、全職員・全生徒による清掃を徹底し、衛生環境の改善を図る。 | A | |
| | | (5) 冷暖房器具の安全管理及び生徒の健康管理に努める。 | B | |
| | 3 防災安全管理の徹底 (1) 防火避難訓練の充実 (2) 地震及び原子力災害避難訓練の実施 | (6) 災害の怖さや、防災の大切さを啓発する。 | A | |
| | | (7) 綿密な計画を立て生徒が安全な行動を取れるように指導する。 | B | |
| | | (8) 避難訓練の方法を工夫し適切に実施する。 | A | |
| 情報 | 1 校内LANの構築とその利用を図ると共にセキュリティーの確保に務める。 | (1) 授業・HR単位でのコンピュータ室利用の支援を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムのバージョン変更にともない、新しい操作の習得。 ホームページに関しては各項目を整理する。 |
| | 2 成績処理の効率化を図ると共に適切な資料の提供を行う。 | (2) 一斉試験等の処理を行い、処理内容の把握とその研究・開発に努める。 | A | |
| | 3 ホームページの更新及び内容の充実を図り活気ある本校の現状を発信する。 | (3) 併設型中学校の開校に伴い各部署との連絡を取り定期的なホームページの更新内容の充実 | B | |
| | 4 支援システムのスムーズな運用を図る。 | (4) システムについて研究し、内容の把握に務め、適切な処理を行う。 | A | |
| | 5 ICTを活用した深い学びのため研修等を通して本校職員のコンピュータ利用に関する知識・技術の支援を行う。 | (5) 本校職員対象の校内研修の企画・運営に当たる。 | B | |

別紙様式2 (高)

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|----------------------------------|--|---|--------|--|
| 第1年次 | 1 基本的な生活習慣の確立を図る。 (1)学校生活社会生活における規律の遵守 (2)時間の遵守と挨拶の励行 (3)健康の管理と維持 | (1)生徒面談、教育相談、立哨指導、学年集会、校内巡視等とおして適切な指導に努める。 | B | ・欠席がちな生徒への早めの対応と、担任だけでなく年次全体での対策が必要。 ・規範意識の確立については教員と生徒の話し合いが大切である。 ・家庭学習や課外については、どのようにしたら自ら進んで計画性を持って習慣化できるのかを考える必要がある。 |
| | | (2)高校生らしい身だしなみや規範意識を道徳・LHR等で徹底する。また、健康の維持と増進を図る。 | B | |
| | | (3)普段の生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また教室内の整理整頓に努め、清掃 | A | |
| | 2 主体的・協力的に課題に取り組む態度の育成と基礎学力の向上を図る。 (1)家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底 (2)課題探究を通じた自己分析と具体的進路目標の設定 (3)新入試制度に向けての研修 (4)平常課外や土曜課外などへの積極的参加と学力の増進 | (4)少人数学習、TT授業等を展開し、定期的に課題を示すことで予習・授業・復習の学習形態 | B | |
| | | (5)総合的な探究活動の取り組みとして、自己の在り方生き方を考えながら、協力して課題を | A | |
| | | (6)家庭学習時間調査の結果を分析し弱点を把握して、家庭学習の習慣化を図る。 | B | |
| | | (7)学習の計画と継続を徹底する。また、平常課外や、土曜課外を利用して発展的な学習を強化する。 | B | |
| | 3 進路目標を考えさせる。 (1)生徒自身の進路適性を考えさせる (2)新入試制度および大学入学共通テストへの対応 | (8)進路講演会、進路ガイダンス、履修ガイダンス等により自己の進路について研究させ、生徒 | B | |
| | | (9)外部模試、課外、集中ゼミを実施し、自学の習慣化と学力の向上を図る。 | B | |
| | | (10)進路意識の啓発のため、進路に関する生徒面談や学年集会を開催し、情報提供と意識の明確 | B | |
| 4 高校生活の充実を図る。 (1)特別活動への積極的な参加 | (11)部活動及び学校行事への積極的な参加を促し、集団への寄与や、一体感を体験させ他者と共 | B | | |
| | | | | |
| 第2年次 | 1 基本的な生活習慣の確立を図る (1)学校生活 社会生活における規律の遵守 (2)時間の遵守と挨拶の励行 | (1)生徒指導部と連携して、服装・頭髪等、交通規範についてホームルーム・年次集会などで継続的に指導を行う。 | A | ・生徒の進路実現に向けた指導体制を充実させる。 ・学習面および生活面において、生徒の主体性と進路探究意識を発展させる。 ・生徒の心身の健康維持を支援する。 |
| | | (2)規則正しい生活を心掛け、心と体の健康の維持管理に努め、欠席・遅刻・早退を減らす。 | C | |
| | 2 主体的・自主的学習態度の育成と基礎学力の向上を図る (1)家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底 (2)自己分析と具体的進路目標の設定 (3)新入試制度に向けての研修と情報の提供 (4)個に応じた学習機会の積極的活用と学力の増進 | (3)自己管理能力を高め家庭での学習を定着させ、さらに学習意欲が高まるような働きかけを継続 | B | |
| | | (4)学力に応じた柔軟な学習指導を行い、発展的学習を強化したり、学習時間絶対量が少ない生徒に対する学習方法の助言を行い全体の学力の伸長を図る。 | B | |
| | | (5)生徒自身が「早期に主体的に進路目標を設定できる」ための進路指導の充実を図る。 *進路ガイダンス・進路講演会・大学見学会・インターンシップ | B | |
| | | (6)「総合的な探究の時間」や「LHR・道徳プラス」などを通して自己理解と社会参画意識を高め、進路実現に向けて考える機会を数多く作る。 | A | |
| | 3 主体的な高校生活態度を育成する (1)特別活動及び探究学習活動への積極的な参加 (2)地域社会への貢献 | (7)個別面談により進路希望を把握するとともに、学習支援ツールを有効活用し、客観的データ | B | |
| | | (8)部活動や修学旅行、クラスマッチ等の学校行事や外部資源を活用した取り組み、地域ボランティア活動を通し、個性の伸長および連帯意識の高揚を図るとともに地域社会への貢献を推進する。 (9)生徒の内面に訴える指導体制を図るとともに保護者・地域との相互のコミュニケーションづくりを推進する。 | A C | |

別紙様式2 (高)

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|---|---|----|--|
| 第3年次 | 1 基本的な生活習慣の確立 (1) 学校生活・社会生活における規律の遵守 (2) 時間の遵守と健康管理の維持 | (1) 生徒指導部と連携し、服装・頭髪等について、校舎内外での指導や年次での指導をおこなう。 | A | ・総合型選抜にむけた指導体制の研究・構築 ・学校推薦型選抜に向けた指導体制の研究 ・早期に進路が決定した生徒への指導の在り方 |
| | | (2) 規則正しい生活を心がけ健康管理に努め、欠席・遅刻・早退を減らし、学習に集中する生活習慣を確立する。 | B | |
| | 2 主体的・自主的な学習態度の育成と、生徒ひとり一人の進路の実現をはかる (1) 主体的な学習態度を確立させ、進路を見据えた学習指導の徹底 (2) 自己分析と具体的進路目標の設定 (3) 平常課外や土曜課外などへの積極的参加と学力の増進 | (3) 本校生徒の現状を踏まえて、生徒自身が早期に主体的に進路を選択し、目標に向かって努力する体制をつくる。 | B | |
| | | (4) 進路指導部や学習研究部と連携を図り、生徒・保護者に進路情報を提供する。 また、個別面談を密にして、自ら考える姿勢を育て、学習方法・学習時間等を適切に | B | |
| | | (5) 大学入学共通テストをはじめとする新入試制度について進路指導部と連携して研修を深め、 | B | |
| | | (6) 積極的・主体的に課外やスタディサプリ動画講座の受講を促し、学力の増進を図る。 また、生徒の希望と適性に合った志望校への進路実現を支援する。 | B | |
| | | (7) 年次や教科の枠をこえ、多くの教員がそれぞれの専門性や特性を、進路指導に実践できる体制をつくる。 | B | |
| | 3 高校生活の充実 (1) 特別活動への積極的な参加 (2) 地域社会への貢献 | (8) 最高年次生としての責任を自覚させ、部活動や生徒会などの課外活動へ積極的に参加し、相手を尊重し思いやる気持ちや連携意識の高揚に努める。 | B | |
| | | (9) 広い視野に立ち、地域社会から愛され、地域社会に貢献する人材を育成する。 | B | |

評価の仕方

- A : 大変よくできた (達成度 100~80%)
- B : よくできた (達成度 80~60%)
- C : 普通 (達成度 60~40%)
- D : あまりできなかった (達成度 40~20%)
- E : 全くできなかった (達成度 20~0%)